



競技要項 第4項の詳解

秋季地区予選大会 競技要項第4項については、下表のとおり行う。

	試合成立	正式試合	時間制	コールド	延長戦	タイブレイク	抽選決着
一回戦～準決勝まで	5回	7回	あり (2時間)	あり 4回 10点差 5回 7点差	なし	あり (最大3回)	あり (タイブレイク戦後)
決勝戦 三位決定戦						あり (完全決着)	なし

上表の詳解については下記のとおり。

【一回戦から準決勝までの適用について】

(試合成立ならびに正式試合)

試合は7回まで試合を行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

※ 但し、以下の場合例外とする。

- 1 試合成立は5回までとし、5回までは2時間を超えても試合を行います。
- 2 後攻チームが攻撃中、後攻チームがリードしている際に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

(コールドゲーム)

4回 10点差 または 5回 7点差。

(タイブレイク)

試合開始から2時間または7回を終了し、同点の場合は次の回から最大3回のタイブレイク戦に入ります。

！重要！タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- ・ タイブレイク戦は正式試合が成立後、同点の場合は必ず適用します。(2時間を超えていても必ず実施)
例：5回終了後、2時間を経過し同点の場合は、6回から最大3回タイブレイク戦を行う。
6回終了後、2時間を経過し同点の場合は、7回から最大3回タイブレイク戦を行う。
7回終了後、同点の場合は、残り時間に関係なく、8回から最大3回タイブレイク戦を行う。
- ・ タイブレイク戦を行っている途中に2時間を経過しても、途中で打ち切りません。
- ・ 最大3イニングのタイブレイク戦を戦い、それでも同点の場合のみ、両チームの最終メンバー9名ずつにて抽選決着を行います。

【決勝戦・三位決定戦の適用について】

（タイブレイク）

決勝戦及び第三位決定戦（本戦出場決定戦）については、**勝敗の決着がつくまでタイブレイク戦を行います。**

【サスペンデットゲーム（特別継続試合）について】

降雨などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

（適用するケース）

- ・ 正式試合（5回完了）になる前に中止になった場合。
- ・ 試合成立後、7回を完了するまでに、残り時間がある場合。

（特別継続試合のルール）

- ① 中止となった元の状態から継続するため、**元の試合で交代した選手は出場できない。**
- ② 監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。
- ③ **投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）**
- ④ 残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で2時間とする。
- ⑤ 特別継続試合の日時、球場、審判員は大会本部にて決定する。

注1）特別継続試合は、原則として、**翌日の第一試合**に割り当てられます。

注2）**試合成立後（5回終了後）に中止となった場合は、リードしているチームが勝利となり、特別継続試合は適用されません。**（決勝戦・三位決定戦も含む）

注3）試合成立後（5回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

※但し、決勝戦・三位決定戦においては、7回終了後、**タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、最終メンバーにて抽選決着を行います。**

注4）試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることはできない。（日没の場合も含む）